

第2回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議議事録

日時：令和5年5月29日（月） 18時00分～20時00分

場所：世田谷区役所三軒茶屋分庁舎3階 教室

■ 出席者

〈委員〉

長山会長、宮井副会長、古谷委員、栗山委員、千葉委員、竹内委員、見城委員、松原委員、児玉委員、市川委員、大石委員、田中委員、中山委員、吉田(亮)委員、大藤委員、吉田(凌)委員

〈世田谷区〉

岩本副区長、後藤経済産業部長、高井商業課長、納屋産業連携交流推進課長、荒井工業・ものづくり・雇用促進課長、黒岩都市農業課長、平原消費生活課長

1. 開会

【納屋産業連携交流推進課長】

定刻になりましたので、只今より第2回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。私は、世田谷区経済産業部産業連携交流推進課長の納屋と申します。本日の議題に入るまでの進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、条例に基づき17名の委員により構成されております。本日は世田谷区農業青壮年連絡協議会の大平委員より、ご欠席のご連絡をいただいておりますが、全体の2分の1以上の委員にご出席をいただいておりますので、会議規則第5条の規程に基づき、会議を開催させていただきます。

まず、配付資料でございますが、次第の下に記載しておりますので、こちらに沿いまして、ご確認いただきますようお願いいたします。不足がございましたら、事務局までお申し付けください。

本日の座席についてですが、市川委員より、アイウエオ順に、反時計回りで配置させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は田中委員のご協力のもと、本会議の議論やプレゼンの内容をイラストに落とし込んでいくグラフィックレコーディングを行っていきたく思っております。そのため、株式会社 cocoroé より渡辺様に本会議へご出席いただ

いております。渡辺様、よろしくお願いいたします。

なお、グラフィックレコーディングは、本日の意見交換ですべてが出来上がるということではなく、今後数回の議論も踏まえて、出来上がるというイメージになります。

それでは、今後の議事につきましては、会長に進行をお願いしたいと思います。長山会長、よろしくお願いいたします。

【長山会長】

皆さん、こんばんは。本日、第2回会議ということで、本日も積極的な議論をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事を進めたいと思います。本日の議題ですが、次第にありますように、まず、委員からの情報提供の後、地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方について、具体的に議論していきたいと考えております。

議題1の委員からの情報提供に入る前に、事務局より、第1回会議の振り返りや今後の議論の方向性等について、説明をお願いします。

【納屋産業連携交流推進課長】

まず資料3をご覧ください。第1回会議の概要としてまとめております。なお、詳細は資料2に議事録をつけておりますので、必要な場合はそちらをご覧くださいと思います。

資料3でございしますが、大きく意見をいくつかに類型化しております。全体的なことや横断的課題に関するご意見や、特に多かったのは、交流やプラットフォームの構築に関する意見は多くいただいたかと思えます。例えば、地域プレイヤーが互いに接点を持つことができる場の構築が、コラボレーションを生み、新たな取組の創出につながるというような意見も多数いただいております。また、人材活用という点では、区内にスキルの高い方も多くいらっしゃる中で、如何にその方々のスキルを活かせる仕組みを作るかということや、区内に限らず、全国の人材とのつながりが持てる橋渡しの観点などもいただきました。

また、新たな取組としての具体例もいただき、社会課題解決の実験的なことのできる予算の話や、街の人から投資を集める仕組みによる地域循環の加速などのアイデアもいただきました。

以上、前回のご意見の集約として一部ご紹介させていただきました。

次に、資料4をご覧ください。議論の方向性イメージとしております。

まず、改めての共有となりますが、議論の目的・ゴールということですが、

地域経済の持続可能な発展を推進していくための考え方について議論をするということは改めて共有させていただいた上で、その議論の仕方ですが、地域経済の持続可能な発展条例の4つの基本方針を一つ一つ実現する、それが持続可能な地域経済の実現に近づくということで考えると、その4つの方針について、具体的に目指す姿や理想とすべき姿をまずは具体的なイメージ化をしていき、そこに向けて何をどのようにしていくかという戦略と取組を明確にしていく、という手順で議論を深めるとよいのではないかとということで提案をさせていただいております。例えば、資料のオレンジ部分ですが、左から、条例の多様な地域産業の持続性確保に向けた基盤強化を図るという方針については、これを実現するためには、具体的にはこのような姿になることだ、ということであったり、このような環境が整い、そこで企業がこのように活動できるようになることが、ひいては方針で掲げた内容が実現できたということにつながるということで検討していければと考えております。例示として、新しい価値が次々に生まれる街というのが目指す姿ではないかということや、意欲ある人が果敢に新たなチャレンジができるということではないかということ为例示として書いております。3番目、4番目の例示ですと、多様な働き方の実現を図るとして方針については、例えば起業が身近にあり、起業したい人が集まってくるような街になるというのが多様な働き方の実現が図られるということだ、というようなことで議論ができればと思っております。

このように理想の姿やまたは、キーワードなどを挙げていただき、それを集約し、議論することで、目指す方向性を共有化し、最終的には、それに向けた取り組みもまとめていきたいと考えております。それをどのように実現していくか、どのような取組が必要かということは次回以降で議論できればと思っております。

2ページ目でございますが、議論する上で念頭に置くべき事項例として記載しております。3月に決定されました世田谷区基本計画大綱においても、目指すべき未来の世田谷の姿ということで、例えば、地域経済については、地域の中で働くということがますます重要視される方向にあることなどを念頭に置き、起業家輩出の基盤づくりや、課題解決に資するソーシャルビジネスの振興などをさらに進める必要があるとされています。また、重点政策としても、新たなビジネス創出につながる取組を進めることや、ビジネスの場としての魅力を増す環境整備が必要ではないかということとされています。

資料の下部ですが、将来の目指す姿を議論していく上では、今後発生する可能性が高いことについては意識をしておく必要があると考えております。例えば、デジタル化がさらに進むことやAIの利用促進、気候変動や脱炭素の動きの加速、社会インフラの老朽化や働き方の多様化、地域課題の複雑化などが、

今後、近い将来においてもさらに生じてくるものと考えられます。これらは世界や全国規模で影響を与えることはもちろんのこと、地域経済や地域産業にも様々な影響を及ぼすと考えられ、例えば、右側ですが、個々の企業において業務効率化が図られるとか、活用・未活用による二極化が生まれたり、新たな仕事が生まれることもあれば、既存の仕事がなくなること、また脱炭素なども新たな事業機会となることもあれば、それに対するコスト対応ということも発生すると考えられます。人手不足による業務遂行への影響や後継者の問題、採用形態の変化なども地域経済に大きな影響を与えるものと考えられますので、本日、あるべき姿の議論にあたっては、このようなところも意識していただき、ご意見をいただければと思っております。また、行政支援の変化とありますが、公共の在り方についても今後は徐々に変わっていくものとも考えられますので、それを踏まえて、行政はどのような取組をしていくべきかというの、次回以降の議論のテーマかと考えております。事務局からの説明は以上でございます。

【長山会長】

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明について、ご意見、ご質問等はございますか。あれば、挙手をお願いいたします。なければ、先に進みたいと思います。

では、議題の1、委員からの情報提供、委員プレゼンに入ってまいりたいと思います。資料は、5の1から4となります。

この情報提供の趣旨ですが、今後、本審議会での議論を掘り下げていく上で、委員の皆様が持つ知見や経験、専門分野などについて、会議のテーマと関連の深い内容について情報提供をしていただくとともに、あわせて提案や提言、問題提起などをいただいて、今後の議論を深めていく基礎的な材料としていきたいと考えております。その上で、本日は、資料4にある、世田谷区の地域経済や地域産業が目指す姿、理想とする姿について、意見交換していきたいと考えております。

皆様の机の上に付箋を置いておりますので、プレゼンテーションも聞いていただきながら、目指す姿としてのアイデアや意識すべきキーワードを1枚に1つずつ書き出していただければと思います。なお、プレゼン後、5分程度、各委員、検討いただく時間も取りたいと思っております。その上で、意見交換会では、皆様に書き出していただいた付箋をベースにご発言をいただければと思います。

なお、付箋は会議が終わりましたら事務局が回収しますので持ち帰らず机の上に置いておいてください。後日、事務局にて発表しきれなかったものを含め整

理し、次回会議で活用したいと考えております。

では、委員からの情報提供に入りたいと思います。本日は、わたくし長山と、田中委員、市川委員、大石委員の4名より、行いたいと考えております。各プレゼンテーションは8分程度とし、その後に、プレゼン内容に関する質問時間を2分程度設けたいと思います。プレゼンテーションは、前方の演台にて行っていただければと思います。

それでは、まずは私からプレゼンテーションを行いたいと思います。

2. 議題

【長山会長】

それでは、プレゼンは8分なのですが、資料は90分ぐらいのものになっていきますので、今から端折って話すことになろうかと思えます。

まず、今日話す内容は、最終的には産業ビジョンが、この会議での最後の成果になると思いますので、この辺りの話を最後、持っていきたいと思いますが、一概に見直しの論点とか視点を話す前に、前段としてこういった話をしていこうという風に考えております。

自己紹介は、私自身の話をするというよりも、おそらく付箋の方で、私だったら書こうと思っているキーワードをアントレプレナーシップとか地域的プラットフォームということについて自己紹介を交えながらしていこうという考えです。

私は、地域経済論と中小企業論の分野において、研究なり実践しているわけですが、2000年代には、産業クラスターとかベンチャービジネスに関する研究というものをしておりました。2010年になりまして、中小企業政策の地域政策が領域が重なったということがあって、その中で出てきたキーワードがアントレプレナーシップや地域プラットフォームということです。最近、教育研究活動におきましては、このキーワードに基づきまして、自分自身でも様々な組織を立ち上げたというところでは、

世田谷区以外でもこうした社会貢献活動はしておりまして、つまり、経済産業省、国がやる地域産業政策、また東京都がやる地域産業政策、そういったことを踏まえてはいるということです。その上で、基礎自治体としての世田谷としては何をやるべきなのかということが大事で、その役割分担というのをしっかりやっていく必要があるのだらうと思っております。

個人的な全国ベースの活動としては、こういった新しい組織を立ち上げて、中小企業分野においてのプラットフォームを作っているところです。大学では、1つ目のキーワードになりますアントレプレナーシップという広義の概念がありまして、何か新しいことにチャレンジするということは、もうほとん

ど、アントレプレナーシップという言葉に置き換えてよろしいのではないかと思います。要するに、狭義の狭い意味のイノベーションというものと捉えな
いでもらいたいというようなことが含まれていますし、また、ベンチャービジ
ネスの議論というのが、最近スタートアップという言葉に変わってますけれ
ども、それは国のやる経済成長のエンジンということではいいんですが、基礎
自治体として、地域の住民ベースでの何か新しい取り組みといった場合には、
アントレプレナーシップという言葉を使った方がいいのではないかといいこと
で、それを生み出す際の地域の学習のコミュニティ、そのコミュニティをたく
さん作るためのプラットフォームというものを大学で色々と取り組んでいると
いうことです。

それは、世田谷区の方でもそうした考え方はどんどん取り入れたいというこ
ともありますし、条例の議論もそうですし、また、この前の1年間においては
こういった調査をしております、納屋課長たちも参加されているんですが、
ちょっと回していただきたいんですけども（資料回覧）、こういった研究をし
ているというところ。世田谷区の議論ですから、世田谷区について知って
ないといけないし、世田谷区の地域の課題や発展性というところにおける起
業、アントレプレナーシップの環境というものを調査した上で、議論をする必
要があるだろうと考えておまして、それにはやはり、他の地域、特に地方の
都市と比較しながら考えていくことがよろしいのではないかなと思ってい
るところです。

特に、アントレプレナーシップの時に大事な言葉としましては、無関心な
層、そういう無関心者に対して、如何に関心を持ってもらうかということが大
事という風に考えております。創業機運醸成事業がありまして、国もそれが新
規開業率を高める上では1番大事なんだと、日本では創業無関心者が7割ぐら
いもいて、それが問題なんだという風にも言われてます。そういった中で、特
に狭いコミュニティレベルの地域における実践、特に無関心な住民や若者と
起業家が交流ができる、繋がれるという場がとても大事だと考えていると
ころです。そのときには共感というものが大事であって、その共感が、何らかの
テーマに基づいて、共感し、繋がって、共に学ぶという共創というものが、大
事だろうと。それには、世田谷の各地域、かなり狭いエリアでの起業学習の拠
点というのを作るということが大事だろうと考えています。実際に、三軒茶屋
ですと三茶ワークさんもやられておまして、テレワーカーとフリーランスの間
での創発から様々な事業なども起こっております。地域プラットフォームとい
うのはいわゆる仕組みでありまして、次々とそうした新しい取り組みは、アン
トレプレナーシップが生み出されるような仕組みというのをどう作るのかと
いうことであって、それ自体はプラットフォーマーというプレイヤーとして

は、先ほどの三茶ワークさん等々色々あるわけですが、全体を設計するのがやはり区であって、区というのはプラットフォームビルダーになるべきだろう、全体を設計するべきだろうというところであります。特に、2000年代にあったような産業クラスターだとか地域のイノベーションというような、最近だったら福岡とかもやってるようなスタートアップのエコシステムみたいなものではなくて、世田谷区としての地域の住民のコミュニティが達成すれば、コミュニティビジネスをたくさん生み出す、ソーシャルビジネスを生み出す、そういったような地域プラットフォームというもの、これにはやはりもう少し緩やかなアントレプレナーシップという概念が、非常によろしいのではないかと、いうところで、条例の時の議論の視点があるわけです。その条例の改正に関しては、ここに関わっている方々がいらっしゃると思うんですけども、基本的には、元々は中小企業憲章というものが、2010年であって、そこから小規模企業というものが重視されるようになってきたわけです。その小規模企業というのは、地域社会のコミュニティの一員であってという流れから、中小企業政策の中で経済成長だけではなく、非経済的な価値というのが取り上げられるようになった。ただ、再度その小規模事業者がどんどん減っている中で、小規模企業振興基本法というのができていると。そういう中で、基礎自治体単位において、小規模の条例をというところで、基本条例を作っている。世田谷においてもそれを産業振興としてやっていたわけですが、さらに世田谷では地域の企業、地域の経済、また、非経済的な価値というところを含めて、条例の改正に至ったというところであります。この際には、70年代にあったような、もう1つの発展、オイルショックがあった時のお話からまさにSDGsまでを含めた形で、地域を捉えるという風な形になっているということです。そういった中でコミュニティビジネスみたいなものが重要だし、そういったものは、商店街というところなんかにおいても当然ながら考えられるし、今、新しい産業を生み出す場所として、ものづくり学校の跡地も活用していて、これはまさに、条例を具現化するものなので、ここが非常に、注目すべきじゃないかなという風に思っているところです。

今、ビジョン作りということなので、今後の10年間を見据えてということになりますので、10年後の姿を描いて、それを、バックキャストで考えていくことが大事になるわけですが、特に大事なものは、曖昧性、VUCAの時代の中でも曖昧になってると。ここにあるように、業種が曖昧になっているし、組織も曖昧になっているし、職と住、リアルとサイバー、これもみんな曖昧になってくることがあって、そういう中においても二項対立を超えた発展性を考えていく必要がある。

国もミッション型になってますし、色んな面で、そういった多様な領域にまた

がるような産業振興というのを目指していく。産業振興を狭く捉えることなく、基本計画にあるような6つの重点施策を結び付けて、全部に関わっていくようなもの、その根っこにある部分というのは、ウェルビーイングとかコモンとか社会的共通資本みたいなものが、共有ワードになると思うんですが、そういったようなものを念頭に置きながら、産業振興を考えていく必要があるということになります。

ということで、ここにあるようなアントレプレナーシップを軸とした地域の課題解決をする人材というものを育成するところがアントレプレナーシップなのであって、その担い手を作っていくような仕組み、仕掛けというものが地域のプラットフォームであって、その真ん中に基本計画で掲げてるような大事なものの、地域の中でこれだけは守らなければいけないというようなコモンを考えていく必要があるだろうということに思っております。時間がないので、この辺は飛ばしていきますけども、産業ビジョンで、今、現行で考えられてるものはどういうことかと言うと、これが今の産業ビジョンなんですが、産業ビジョンもその内容はしっかり把握する必要があると思うんですけど、やっぱり4年前に作られて、今もちょうど中間で5年目になりますが、この時は産業振興の観点が経済成長を重視したもので、やはり標準産業分類の枠内に関わっているものだったと思います。

既存産業の再生と、新しい産業を創出するということにおいて、地域内の内発的発展を目指すということにおいては、他の自治体に比べれば最も進んでいる産業ビジョンだったと言えると思います。ただ、最後に我々の条例の方でそれを乗り越えて、区民だとかまちづくりというような視点も拡張していく必要があるし、産業という概念自体の拡張ということを考えていく必要があるだろうということです。

ビジョンのところにも、豊かさという言葉がありますが、そういった時には、ウェルビーイングというようなキーワードも考えていく必要があるだろうということで、最後に産業ビジョンの見直しにあたって、こういった論点があるのではないかとということで掲げてるところであります。また、これは、今後、議論を進めていければなと思っております。以上です。

【長山会長】

ご質問はありますか。まとめて議論する時間はあると思いますので、その時でもお寄せいただければと思いますし、また、この付箋の方に書いていただければと思います。では、続きまして、田中委員、お願いいたします。

【田中委員】

はい、ありがとうございます。

改めまして、田中美帆です。よろしく願いいたします。あんまり時間がなくてですね、私も90分の講義を10分でっていうような話で、絶対に時間内に収まらないから、最後に、私の講義動画、YouTubeに上がってるんです。皆さんに特別にアクセスいただければ。私の話はイントロダクションだと思って、講義動画で気になったとこだけ見てくださっていうような、そんな話の内容で進めさせていただきたいと思ってます。

今日は3つお話ししたいと思えます。私はソーシャルデザインファームという活動を行っておりまして、そのデザインアプローチで社会課題解決に挑むっていうようなことを日常的にやっております。なんでデザインと社会課題が繋がるのっていうような、そこの部分がまず最初の1の部分です。

世界の事例っていうのが、もうすでにいっぱいありまして、今回の世田谷区の会議に1番はまりそうな事例を3つ持ってきております。1つは、環境視点でゼロウエスの町、上勝町という内容のものです。もう1つは、歩行者に優しい町とか自転車に優しい町というような、そういったところで警視庁の取り組み。最後に、もう日本は世界一超高齢社会なので、その辺はイギリスで、認知症に優しいまちづくりっていうものが進んでまして、スローショッピングの事例をお伝えします。イノベーションには、先ほどの長山会長のお話がまさにというような形で、共創が必要だというようなところ。そこをまとめて、講義とするような形です。

まず、1の部分について、21世紀に入ってもう23年経つので、このデザインの領域って、皆さん、デザインっていう言葉に対しての、認識がものすごい狭いというか、装飾とかスタイルとか、クールとかかっこいいとかっていう、そういう表層的な部分っていうのは、20世紀に発展してきましたですね、私も、ここにある1番元祖のグラフィックデザイナーっていうのが、私のキャリアの基本になってるんですが、21世紀に入ってから、目に見えないものほとんど全てをデザインするっていうような、そういった時代に入ってきてます。それで、生活とか遊びとか仕事、教育、組織、政府っていうようなところに、デザインの考え方というのが、有効になってきてるっていう、そんな時代に入っております。

いろんなところで、デザインっていうものがその役割を担ってくる中で、より包括的なデザインっていうものは、どうやって実現できるんだろうというようなことです。包括的っていうような言葉が、どういうことかと言いますと、今、世の中に存在してるデザインっていうものは、左側の図、20代から40代ぐらいの、健常者で、元気に働けて、心身ともに健康な平均的ユーザーっていうような方々を中心にいろんなことがデザインされています。ただ、そうす

ると、じゃあ赤ちゃんはどうするかとか、世田谷区にもいっぱいいらっしゃる外国人、日本語が分からない外国人とか、身体に障害を持っているような方、もしくは、我々も高齢になってくれば、ある程度、いろんなところに障害があるというような世代になった時に、その人たちはもうずっと排除されっぱなしでデザインされてきたというのが20世紀。それで、21世紀に我々がこの極端なユーザーの方々を中心にデザインをしていくっていうことが、包括的なデザインに繋がっていく。それはもうすでにインクルーシブデザインっていう言葉で、領域もしっかりできてまして、その極端ユーザーに着目することで、そうするともう健常者はもちろん使えるよねと、そういったことで、デザインが成り立つっていう、そういう領域がございます。

代表的な例で言うと、こちらのタイプライターがそうなんですけれども、タイプライターって、1,800年代に、目が見えない男性が開発したデザインなんですよ。

目が見えないから、自分の恋人にラブレターを送りたいんだけど、字が書けない。なのでタイプライターで自分の思いを伝えるっていう、そういう要素でできたんですね。皆さん、見てください。もう皆さん絶対にキーボード今触ってますよね。皆さんは、全然目が見えないわけじゃないです。なんですけども、こんなに世界的に、目が見えない人が作ったデザインが、こんな風に世界に広がっているっていうことが、包括的なデザインの一事例になります。ほかにもウォシュレットトイレなんかも実はそうなんです。この包括的なデザインについて考える思考フレームワークっていうのも、実はもうとっくにできてまして、ダブルダイヤモンドっていう考え方なんですけども、大きく見ると、左側のダイヤモンドと右側のダイヤモンドっていうのを分けて考えるんですけども、左側は課題定義をするまでの思考かプロセスっていうのをデザインしましょうっていうものが1つ。

右側に行って、今度は、その課題定義されたものに対して、クリエイティブの発想をしていくっていうような、そういった考え方になります。

そもそも課題定義そのものが、今、VUCA時代って言われている中で、売上げが足りないんですとか、このブランドをもっと知名度を上げたいんですっていう、それが本当に課題でいいんですかっていう、課題そのものを問い直すっていうような、そういった時代にもう私たちは突入していて、それを、リフレーミングするという風に言うんですが、その課題っていうものが本当に正しい課題かっていうのをリサーチして、そのリサーチを元に、色々意見を集約して行って、課題定義をする。もしくは、チャレンジステートメントっていうような言い方もするんですけども、こういったことにデザインでチャレンジしようといった、まちづくりをしようっていうような、課題定義をしている。そのあ

とに目的のために、いろんなデザインの形を模索していくってというような、そういった、デザインプレス創設っていうものが定着しているんですね。なので、このダブルダイヤモンドの考え方ってというのは包括的なデザイン、まちづくりっていうものにも有効かなってというようなことで、ご紹介いたしました。

こういった考え方を基に、3つの事例っていうものをお話ししたいんですけども、まず、さきほどの極端ユーザーの中で、外国人とか障害者の話をしたんですけど、環境だってそうです。人じゃなくても別にいいって、事例が1つ。こちらが上勝町の事例です。上勝町は昔からゼロウエスのまちづくりをしていて、45分別のごみの収集を町の中でやっています。ごみの総排出量ってというのは東京の半分になっていて、廃材を使って、観光的な部分とか、目の引くポイントみたいなものを展開するまちづくりをしています。人口は8,500人しかいないのに、全世界から視察が年間2,000人来るといようなまちづくりを行っています。

次が、警視庁で行っている歩行者に優しいまちづくりってというような観点です。歩行者も別に極端ユーザーじゃないじゃんって風にも思えるかもしれませんが、今、この社会の中では車の方が優先されて、私たちは1番下ぐらい。横断歩道を東京で渡ろうとすると、100台車が通るとそのうち5.8台しか止まらないって、そういう統計がもう出ちゃってるんですね。こういった状況で、高齢社会において、それがいいのかとか、自動運転が発展するにあたって、そもそも車優先を前提にした、こういった車の改革が進んでいいのかってというような、そういった議論もございます。いろんな取り組みってのが、実は日本でも全世界でも行われているので、こういったところの観点ってのも、世田谷区の中で考えられるといいのかなって風にも思っています。

最後の事例が、認知症に優しいスローショッピングという取り組みです。これは、イギリスのスーパーマーケットで取り組んでいる実際の事例なんですが、火曜日の2時間だけ、高齢者ウェルカムってというような時間をとって、従業員は認知症になるとどういところで買い物でお困り事になるのかってのを重視していて、それに対して対処する形を取っています。でも、実際やっていることはお金をかけてやっているものではなくて、レジの電子音を消すとか、BGMを消すとか、それだけでもすごい効果あるんです。静かなところで、落ち着いて買い物ができるってことがメリットになります。もちろん売り上げが上がるんですけども、もっと上がるのが、そのスーパーでレジ打ちしている人たちが、高齢者から感謝されるってというような、そういう機会が生まれるので、従業員エンゲージメントがめっちゃめっちゃアップする。また、そのまちは、そのスーパーだけでなく、大学や地元の財団と連携して、その町そのもののブランド力アップにも貢献しているってというような、そんな取り組みになっ

ております。

最後に、このデザインっていうものは、先ほどの21世紀の広義なデザインっていうような観点から言うと、価値創造そのものなんですよ。その価値創造をしていくために何が必要かっていうと、この縦割り社会の分断された社会の中で、もう私たちがいち早くこうやっていかなきゃいけないっていうことは、社会課題に興味のないような人たちと、そうではない何か課題を持った当事者、もしくはそれに関係した人たちがもっと出会って、対話を始めて、思考を混ぜていって、共通の思い、先ほどコモンっていう言葉が出たんですけども、共通の思い、共通理念、共通ビジョンでいいと思いますが、そういったものを共創で生み出すっていうような、そういったことが必要なのかなと思ってます。それに至るには、そこに多様性が必要でありますし、共通ビジョンを持った上で、さらに持続性、共同性、公益性っていうような要素っていうものが必要になってくるのかなっていう風に考えています。

ということで、ものすごい猛スピードでお話ししましたが、ゼロウエストの上勝町は、15分ぐらいの短い講義なので見ていただくと、理解が深まるのではないかと思います。以上です。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

【長山会長】

ありがとうございました。ただいまのプレゼンにつきまして、ご質問等ございますか。

では、大藤委員。

【大藤委員】

基本的な質問で恐縮なんですけど、この持続可能な事業っていうところの定義って何になるのかを確認させていただけるとありがたいです。

【田中委員】

この定義ももしかしたらどこを基準にするのかっていうのは、この会議体の中で、議論するべきじゃないかなっていう風には思ってます。1番いい指標はSDGsです。SDGsって17ゴールがあって、アイコンが並んでるからふわっとあって、何を具体的にゴールにするのかって、なかなかわからないじゃないですか。なので、私がよく学生に言っているのは、自分が取り組みたい、そのゴールの中のターゲットを見ましようっていうんですよ。17本しか並んでないんですけど、実は、1つ1つに大体10ぐらいのターゲットっていうものが、ちゃんと国連のウェブサイトで読めるようになっています。そこに、その世界で1

ドルで暮らす人々をなくすっていうような、その1ドルで生活すること自体が貧困だっていう風に定義してるとか、そこにターゲットが載ってるんです。全部で169もあるので、自分が関係するターゲットを拾い読みすればいいと思います。けれども、それをクリアすることで、持続可能な社会づくり、まちづくりっていうものができてくるんじゃないかっていうような、そういう指標でいいんじゃないかなっていう風には私は思っています。

【長山会長】

はい、ありがとうございます。この後、市川委員からサステナビリティについてはお話あると思いますので、またそこで議論を深められたらと思います。ありがとうございます。では、続きまして、市川委員、お願いします。

【市川委員】

よろしくお願いします。私はPolarisという会社の紹介を後ろにまとめていて、私たちがやっていることを、仕事軸のコミュニティ作りという風に私で掲げているんですけども、その観点から、資料をまとめてみようというので、ちょっと時間が足りないので、なるべくコンパクトにと思って、お話ししたいことは、サステナビリティということだけに特化してまとめてきました。

人と街と関り合いながら働くということができれば、お互いの形態になっていくのではないかというお話です。特に、全部の方針に関わってくるものにはありますけども、私は、働きやすい環境を整備して、企業側で多様な方々に実現を図るところに着目して、どういうことができたらいいかなって考えました。

観点としては、働き方のSX化というものをピックアップしてみました。よりサステナブルで、よりインクルーシブな働き方っていうのを、地域全体で取り込めればいいんじゃないかっていうのが、私からの1つの提案です。

SX化というのは、個人や組織が、サステナブルな方向に変容していくことであり、それに、地域ぐるみで取り組むということができると良いと思ってます。SXとか、そういう横文字については、なかなか扱いが難しいところもありますし、実際、現時点では、SXとかは、大企業のものという認識の方が強いかもしれませんが、今回のこの条例にも、世田谷の産業に関わる全ての主体が、多様なニーズに応じた働きやすく創造性が活かされる環境や対話ができる場をつくりながら、各々の役割を果たし連携していくこととあるように、そもそもSXという分かりにくい言葉が自分たちにとってどういう意味があるのかとか、どういう理解ができるのかということですね。なんかこう、働き方と

サステナブルという切り口で対話したり、その場ができればいいんじゃないかと思って、あえて働き方のSX化っていうのは、なんだろうなと考えました。持続可能とか、持続可能性って、わかるようで、結構わかりにくい言葉だと思うんですけど、何かトライしている会社においては、働き方においてサステナブルであるっていうのはどういうことかなと考えると、単純にキャリアが途切れないっていう意味ももちろんですけども、働き方に無理がないという意味もあるでしょうし、もしくは、変化に適応し続けるという意味もあるんじゃないかと思います。

あとは、繋がりがあるとか、生まれる循環の輪の中に自分がいるというような意味もあと思いますし、また、直接繋がってるものだけじゃなく、その先その先という風に想像できるという意味もあるんじゃないかと思います。あとは、この自分がやっていることの意味とか価値が分かるっていうのはさすがとも言えるでしょうし、分断とか滞りなどの課題に意識的になる、気がつけるっていうこともあると思います。あとは、世代をつなぐということもあると思います。現状、裏を返すと働き方はそうはなっていないのではという風に思って、私も、育児、出産をきっかけに、1度離職をしていますので、そういう意味では、様々な理由でキャリアが一旦途切れてしまったり、働き続けてはいても、意味があったりどこか消耗してしまったり、変化に適応できないとか変化に気がつけないとか、繋がりがなくて途切れてしまうとか、自分が大きな輪の中にいるような実感を持ってないとか、自分の仕事の意味がなかなか感じられないとか、そういう風に今現在は、なかなか感じにくい状況なのではないかなって思います。

これらの課題を解決及び解消するためには、さっきも読み上げた条例にもあるような、世田谷区の産業に関わる人たちが、自分たちにとってのサステナブルとかSXってなんだろうねとか、じゃあ逆にサステナブルでないというのはどういうことなんだろうねということを、話していけたらいいんじゃないかなと思ってます。

働き方を持続可能にするというのは、個人のキャリアにおいて、組織において、社会において、どういう意味があるのかということを考えながら、解決策の対処方法を考えていきたいと思っています。これはですね、私がこう個人においてとか、地域の事業者組織において、世田谷区の地域の連携団体において、さっき挙げたサステナブルじゃないっていうのについてですね、どういう事ができたらサステナブルなものになっていくのか、こういう風にしたらできるんじゃないかっていう風にちょっと考えていたものです。例えば、仕事やキャリアが途切れないというものをSX化、個人においては、多様な形でキャリアを途切れさせない力を持つことがすごく大事だと思います。就労継続するだ

けじゃなくて、一旦離れたとしても、フリーランスみたいに使う形で仕事を続けていくことかもしれないですし、前提を変えるとできますけど、雇用されて働くことだけがキャリアだというような前提から離れたら、育児とかに集中している時も、自分にとってはキャリアの途切れがないっていう風に思えるかもしれないし、そのためには、多様な選択肢を知ることがSX化に大事なんじゃないかなと思っています。

そんな風にしてですね、働き方に無理がないっていうのは、どういうことなのか、そんなのをですね、SXってなんだろうねとか、何ができるんだろうねとか、そんなことを考えていけるといいでしょうし、そういうのが政策に繋がっていくというので、1番上だけ少し丁寧に見ると、今、個人のところは言いましたが、多様な形でキャリアが途切れのないような力が個人の中でまとめればいいし、認識とか、前提を変えたりとか、そのためにいろんな選択肢、いろんなやり方をやって出会うことで、こんなやり方もあるんだなとか、こういうことも考えられるんだなっていうようなことが個人の中では多分あって、そういうのを推進していくためには、地域の事業者とか組織においても多様な就業機会を作ることが大事になるでしょうし、あと、多様なキャリアとか多様な人材を評価するということが大事だと思います。

個人の人生とか選択において、自分の自由な働き方というのを選択してもいいけど、それがなかなか評価されないと難しいと思うので、地域の中ではそういった多様な就職機会を作りつつ、多様な人材を評価する仕組みが必要だし、それを区としても多様な就業機会を作る事業者に対しては、積極的に何らかのインセンティブを示すとか、そういう人材の雇用についてのフォローするとか、そういったことを進めていけると、課題解決に向けて続いていくのではと考えています。

こまごま書きましたけど、1つの私の考え方でありますので、もっとういふ発想があるんじゃないかとか、こういう考え方ができるんじゃないかっていうの自体を知れたらいいなって思います。SXも非常に多様性を前提にすると、1個の正解があるものはないと思いますので、様々な観点から議論をしながら、それでも、どうやったらみんなで何らかの形でサステナブルにしていけるのかっていうことを考えていけたらと思います。

最後になりますけど、そういうのを考えるようになった時にSX化とかいう言葉から最初に来たんですけど、そもそも、持続可能に働くってどういうことかなっていうのを思いついたエピソードをいくつか紹介させていただきます。1つは、育児離職した女性のSX化という観点でいうと、地域の中で居場所と出番を見ながらキャリアをどんどん転換させてきたという事例です。

これ実は私でですね、17年ぐらい前の、大学3年生と2年生のところの議論

も出てますけど、私自身が会社員として、1回、仕事を辞めて、職が途切れましたが、模索の末に、居場所と出番を得てその中から雇われて働く以外の選択肢を知ったり、パラレルキャリアという言葉があるんだ、じゃあ、私のこの育児離職の期間のキャリアなんだと理解してですね、どんどんキャリアを、キャリアっていうのを、発展させていったっていうような事例です。そういう地域の中で悩んで考えたり、そういうやり方もあるねっていうのを、ともに行動する仲間と出会えたり、受け止めてくれるコミュニティがあったから、私のキャリアがこう先になったんだなと思っています。

また、世田谷のシニアの働き方の、あるグループにおいても、単発で多様なスタイルの仕事を地域の事業者に作ることで、シニアが地域の中で新しい家であったり、キャリア、別の形で活かしてますけども、これも、定年再雇用とか再就職だけではないサステナブルな方向に引っ張っていく政策だと思っています。

また、Polarisにおいても副業人材がおりまして、会社員とか別の組織に関わりながら行っている人たちが、メインの職場と違って、Polarisの仕事は癒しだなとか、仕事じゃないから期待値だけでできるなとか、すごく癒される、単純にお金をもらう仕事だけじゃなく、何らかの役割があることで、元々の本業の部分についても見える景色が変わってきたり、考え方が変わる。

多様な仕事をして、1人のキャリアを続けていくことも、サステナブルに繋がるんじゃないかなと思っています。

最後に、マイペースな高校生ですね。これは私の友人の話です。障害を持つ高校生が、個性を活かした方が、チャレンジとして、コーヒーを提供することをやっています。地域の街づくりの居場所だったり。出てくるまでにすごい時間かかったり、コーヒーが薄かったり濃かったりバラバラで、標準的なカフェじゃないんですけど、なんかこう、癒されたりする空間になってます。

特別支援学校を出た後に、障害者雇用としての選択肢が厳しい中で、彼がどうやって自分らしさを発揮して生きていくのかっていう時に、雇用の中では難しいかもしれないけど、地域の中でなんらか役割を果たすことで、彼の個性を出せるでしょうし、支援を受けるだけじゃなくて、自分がなんだか提供をすることで、自分の価値とか、やってよかったっていうのがあると彼の生きてる意味が豊かになったり、親として、それを見られるのはいいんじゃないかなと思って、こういうのをインクルーシブとして作っていったら良いのではと思っています。

これはイメージですね。循環というのは、スパイラルアップじゃなくて、もっと円環的だったり、そういうのも関連したようなイメージで捉えています。いろんな政策がいろんな形で抱え合っていくといいなと思っています。

これは参考とした資料です。以上です。ありがとうございました。

【長山会長】

ありがとうございました。では、次に大石委員、お願いします。

【大石委員】

最後に私の方からお話させていただきます。

私は、ほとんど世田谷で創業したといってもいいんですけど、ベンチャーの私たちと世田谷区さんとどんな取り組みをしてきたのかということを中心に、弊社の自己紹介などもさせていただいて、創業して12年ぐらいなので、イノベーション、弊社なりの視点でしかないんですけど、どういうことを工夫しながらやってるのか説明させていただきます。

私たちの会社の問題提起をいつもさせていただいてるところで、今日、皆さんお茶を飲んでらっしゃると思うんですけど、このお茶にだって産地がありますよね。このお茶ですと、どこでしょう。国産茶葉としか書いていなくてちょっとよくわからないですけど、この電気にだって、実は産地もありますし、皆さんが着てる洋服にだって必ず誰か生産者がいるわけですよね。

例えば、ファストファッションって最近問題にもなってますけども、安い服をどんどん皆さんが消費すればするほど、例えばウイグル自治区での、洋服の消費が労働搾取に繋がってたり、皆さんパソコン必ず使ってもらえると思うんですけど、パソコンの中に入ってるリチウムイオン電池って、Apple コンピューターのパソコンは基本的に100パーセントリサイクルのリチウムイオン電池を使っているんですけど、一定数リチウムイオン電池は子どもたちが違法労働で採集した希少金属でバッテリーができていうことがあって、僕たちの会社の問題意識というか、社会に対しての問題と言いますと、顔の見えないライフスタイル、私たちは顔の見えないものだらけで囲まれて生活してるんじゃないかと思うんですけど、今朝食べたものとか、着ているものとか、皆さんたぶん生産者わかんないですよね。このお茶ですらわからないわけですから、この中で、結局、児童労働とか労働搾取だとか、色んな環境破壊とか、そういう社会問題を内包してるんじゃないかなど。その中で、まあ1番最初に問題点としたのは、この電気ですって、電気だって生産者がいる、急にどこかから降ってわいてくるものではなくて、必ず皆さん、どこかの発電所の電気を使ってらっしゃるわけです。ですけど、電力会社に1万円払ったりした後に、その先、自分の電気代がどこに払われるのかって、皆さん関心持たれたことってあるでしょうかという問いかけをさせてもらっていて、ほとんどの方は、ここにいらっしゃる方はエコ意識も高いしSDGsの意識も高いでしょうけど

も、ほとんどの方の電気は多分、石炭火力発電所、石油火力の発電所に支払われています。

一方で、エコな生活をしましょうと言いながら、皆さんの日々のドライバーとかテレビだとかでCO2を出しまくっている現実がある。これ、おかしくないですか、どうせだったら、自分の電気代の1万円を、例えば福島で頑張ってる再生可能エネルギーの発電所の方にお金を払ったりすると、皆さんの電気代で再生可能エネルギーを応援することもできるし、福島復興を応援することもできるわけです。だから、皆さんの消費しているいろんなパワーを持ってるわけですが、放っておくと顔の見えないところにどんどん流れちゃって、それが知らない間に、社会課題に対して加担してるということになりますということで、私たちの会社はこれを1つ1つ顔の見える化していきましょうということでやっています。

最初にやったのも、世田谷区にもお世話になってできた顔の見える電力ということにして、これはどういうものかと言いますと、皆さんとコンセントの向こうが必ずどこかの発電所に繋がってますよということで、皆さんの電気代を好きな発電所には支払いましょと。これはブロックチェーンというテクノロジーを活用しまして、世界で初めて、自分の家の電気が何パーセントどこから来たのかっていうのトレーサビリティをするという、世界で初めての話です。今、法人向けにこの事業を展開させてもらってますけども、おかげさまで、今、大体いわゆる再生可能エネルギーで経営したいというパタゴニアさんとかスノーピークさんとか、花王さんとか、色んなSDGs企業さんに弊社の電力を使っただいて、1000社6000拠点を再生可能エネルギー化していったところがきっかけです。元々、世田谷区との事例を元に始まったところがあって、世田谷区さんがどうせ世田谷区で電気を使うんだったらば、南相馬の電気を使いたいと。それで実際に群馬県川場村のバイオマス発電の電気を使う、長野県の水力を使うんだっていうような世田谷区さんの方針があって、では、私たちがそれをテクノロジーでどう実現できるだろうかという観点で進めさせていただいた結果、今の顔が見える電力というのが世界で初めて、商用化事業ができたというのが、私たちの1つの発展のきっかけであります。

その他にも今は世田谷区さんにも導入させてもらってるんですけど、横浜の小中全てに空気の見える化をということをやらせていただいています。空気を見える化して、お父さんお母さんが、自分の子供の教室の空気がどのような状態かを見える化してしまして、例えば、CO2濃度が高かったらクラスターが起きやすそうとか、1500ppm以上だと頭がぼっとして居眠りしそうとかをお父さんお母さんが分かるようにしています。これが分かるようになることで何が良かったかという、子どもたちが自主的に換気をし始めたんです。家に

帰ってからもちょっと換気してみようかなというようなことで、子どもたちの自主的な行動に繋がったってということで、横浜市さんと子どもと働く人のウェルビーイングを高めていこうということで、みんなエアー事業を展開させていただきました。

また、サプライチェーンの見える化ですね。例えば、このジーンズがどこでできたジーンズなのかとかいうことを、どこから来てどう移動し、それは何キロで、CO2をいくら出してというようなことを、ジーンズの顔の見える化ということでTADORiという事業をやらしてもらっています。いろんな生活分野を見える化していたり、あとは農地の見える化だったり、木材製品の見える化ですね。これも合番なんですけど、違法伐採の問題もあつたりするので、顔の見える木を使っていきましょうということで事業をやらせていただいたりしています。顔の見える電力をきっかけに、世田谷区さんの事例作りをきっかけに、ありとあらゆるライフスタイル、自分の生活の顔の見える化をしていくことによって、1人1人が社会課題の解決のきっかけや機会がありますということをご皆さんに伝えさせていただいてる会社になります。

おかげ様でいろんな株主さんにも入っていただいて、先ほどPolarisさんのお話にもありましたけども、要はサステナビリティトランスフォーメーション、生活者だったり法人が1つ1つ顔の見える消費をしていくことによって、サステナブル、持続可能に、みんなで社会をよくしていきましょうということで、サステナビリティトランスフォーメーションの方向に向かっている会社です。

元々、世田谷発のものづくり学校のところから始まってんですが、丸井グループさん筆頭にTBSさん、ビームスさん、ここに載ってないところだと、花王さん、スターバックススターバックスさん、アップルコンピューターさん、パタゴニアさんということで、NIKEさん含めてですね、色んなそういうSDGsとかサステナビリティ、ESGを掲げておられる企業にいろんなサステナビリティソリューションを導入いただきまして、それが顧客基盤、弊社の強みになっていると。また、インフルエンサーとって、例えば、いとうせいこうさんとか、一青窈さんとか水原希子さんとか、いろんな方に自主的にみんな電力を使っているということを発信していただいています。企業とサステナライフスタイルをやってる人たちがもう一つの私たちの基盤になっている状況になります。

最後に、私たちがイノベーション創出にあたって工夫していることということで、時間も限られてますので、先ほどからお話にありましたように、やっぱり多様性だとか、色々やっぱイノベーション創出のポイントは多様性というのは一般的によく言われるんですけども、それをより形に落とし込むためにど

ういう工夫が必要なのかということに関して言いますと、まず真ん中にイノベーションがあって、弊社の社員だとかパートナーというのは、基本的に社会課題に対して対応してる社員しかいないんですが、まず、UPDATER2 原則という会社の 2 原則を決めています。

基本的には自分が面白い仕事しかないというのが第 1 原則、第 2 原則が儲かる仕事、面白くって儲かる仕事以外やらないということを決めています。面白いのも、まずは自分が面白いのが第一で、次、社会が面白いって、お客さんが面白いって、会社が面白いと序列をつけています。儲かるというのは、社会が利益を上げて、お客さんが利益出て、会社が利益が出て、自分が利益を出すと序列を決めています。面白くって儲かるという原則を大事にしているというのがまず 1 つポイントとしてあります。イノベーションを創出する時に、多様性というのはいいんですけども、押し付け合いになるっていうのは、どうしても社員が組み合さらないという場合もあるので、まずはお互いのルールを設定するというのはすごく大事だと思って、しかもシンプルにするというのはすごい大事だと思っているので、面白くて儲かる 2 原則しか決めていない。そこに対して、異業種とのコラボだったり、実際に実装するという観点からすると自治体の影響ってすごく大きくて、世田谷区に導入されたということをごだけ PR に使わせていただいたかわかんないです。ものづくり学校という拠点もとてもよくて、教室の一教室で電力会社をやってるっていうその違和感にものすごいパブリシティ効果があって、そういう意味では世田谷ものづくり学校っていうのも僕らにとってなくてはならないようなパートナーですし、それに対してカルチャー、もし興味ある方は弊社に来ていただければおもてなししますが、会社の中にスナックがありまして、そこで社員と私がお客様とコミュニケーションするような場を作ったりしています。

特に異業種とのコラボ、自治体さんとのコラボ、如何に自分たちと違う、電力というどうしても理系の堅そうな人ばかりなんですけど、アーティストとか自治体さんとかを取り込むために場作りだったり制度作りだったり子育て支援だったりみたいなことをやってるっていうところがありまして、こちらについて、皆さんにも聞いていただきたいのが、土曜日の 19 時半から、異業種を巻き込む 1 つのプラットフォームになっているんですがスナック SDGs という TBS ラジオで番組やってます。そこでは異業種でコラボして SDGs について考えるという番組なんですけども、そこで出会って、イノベーションの方に誘い込んでいくという作戦をとっていますので、皆さんも聞いていただいたり、弊社のオフィスに遊びに来ていただければなと思います。紹介がてらになりましたが私からは以上です。ありがとうございます。

【長山会長】

ありがとうございました。それでは議題の1については、ここまでとさせていただきます。プレゼンをしていただきました委員の皆様、貴重なお話、ご意見をありがとうございました。

【長山会長】

それでは次に、議題2、地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方に関する意見交換に移りたいと思います。プレゼンテーションでの情報提供や提案、提言を踏まえて、資料の4で示しました世田谷区の地域経済や地域産業が目指す姿について、意見交換していきたいと思います。

まず、付箋にキーワードを書き出す時間を5分程度取りたいと思います。皆様が考える目指すべき姿、理想とする姿について、1枚に1つずつ書き出していただければと思います。いくつもあると思いますので、何枚も付箋を使ってもらえればと思います。

気軽に付箋に書き出していってもらえればと思います。ブレストなんかでは何が正解とか、そういうことを考えるよりも、とにかく思いついたものをどんどん書き出して、質より量だとよく言われてますので、どんどんキーワード書いてって、その後、補足的に、その中に書いてもらうやり方がよいと思います。

【長山会長】

そろそろ5分程度が経過しましたので、これより意見交換に入りたいと思います。

皆様には、書き出していただいた内容も踏まえてご発言いただければと思います。また、条例で掲げている4つ基本的方針については限定せず、一方で、目指す姿・理想とする姿という横串部分に集中して、議論したいと思います。資料4に記載しているような例示も参考にいただければと思います。ご意見ある方から挙手制でお願いしたいと思います。

誰がどうなってるのかといったようなところを具体的にお話してもらったり、例えば二つ目の柱の多様な働き方の実現を図るというものならば、どういう姿が理想の姿で目指すべきなのかとか、どのような姿になってると多様な働き方が実現できるのかといったイメージを、意見で上げてもらうということも、よろしいかなというふうに思います。

社会的な課題解決へのソーシャルビジネスの推進というところにおきましては、どのような姿が実現すると課題解決に向けた活動が積極的に行われるのかとか、またどうやったら自発的にそうした姿が生み出されるのかとか、誰がど

うなってるるとよろしいのかというようなところのイメージを具体的にお話してもらえればと思います。意識するキーワードを付箋に書いてもらっていますので、そういったところを紐付けながら、お話をしてもらえると、わかりやすくてよろしいかなというふうに思っております。

それでは書き終わった方から順次、ご発言をお願いします。

いかがでしょうか。はい、では、田中委員。

【田中委員】

はい。ありがとうございます。私は登壇者だったので、3人のこのお話を聞いて、今回三つのキーワードが、やっぱり4人とも共通することかなと思ってあげてます。

まず一つ目が「ワクワクする」というのと、その次に「共創」で、最後に「コモン」。ワクワク、共創、コモンっていうこの三つのキーワードが、四つの柱の持続可能な発展においてすべてにかかるんじゃないかなあと思っています。、大石さんが言っていた、面白くて儲かるっていうようなところでワクワクしないとまず取り組めないし、そういったものが共創につながって、最後に共通理念、ビジョン、共通社会資本っていうような、そういったところが生み出される。そこから全てが4つの柱に落とし込まれていくっていうような形が理想的な形なんだろうなと思い、キーワードを出しました。

【長山会長】

はい、ありがとうございます。じゃあ、吉田さんお願いします。

【吉田委員】

改めまして、三茶ワーク吉田です。最初、長山先生のアントレナーシップとかそのための地域のプラットフォームっていうところのキーワードというか、そこから感じたことなんですけど、1つ目は、世田谷の特徴を考えて、やっぱり住んでる人が多い、つまり子供が多いっていうところがあって、その町の子供が、町の大人の起業家に日常的に触れ合えるとか、別に意識しなくてもそういう人たちがいて刺激を受けるっていう環境を作るっていうのが1つ大事というか、そういうのが新しい地域コミュニティなんじゃないかなという風に思っています。三茶ワークもいろんな大人がいて、そこに僕の子供とかも連れてくと、自然とそういう大人と出会う機会があって、それが建築家ってこういう仕事なんだとか、なんか農家の人ってかっこいいんだとか、なんかそういうのっていろんな刺激になってるなと思ってて、そういう町の子供たちがもっと知れるコミュニティだったりプラットホームになるといいなという風に1つ思ったの

と、そこから考えた時に、地域経済の発展っていうのを考えた時に、どんなコミュニティがあるかなと思ってたのが1つは世代とか属性とか、こうやって多くの人たちが楽しめるエンタメコンテンツっていうのが、1つ世田谷の中にあると世代を超えたり、属性を超えたりしてみんなで楽しめる。その中で、こうコミュニティを育て、気づいたら、隣にいる大人の話聞けるみたいなものがあるのかなと思っていて、その中でもエンタメのコンテンツって、1つはスポーツコミュニティってあるのかなと思っています。日ハムが最近、エスコンフィールドを作って、野球を軸に地域のまちづくりをしてこうみたいなものがありますが、そういうのもすごい。世田谷で言うと野球は無理かもしれないですけどバスケットとかフットサルとかそういうチームをみんなで応援するみたいなのところからコミュニティが生まれると、さっき言っていた楽しくとかワクワクする中から生まれるのかなと思っています。

最後3つ目は、社会課題とかSDGsっていう時にこれまでの金融、間接金融の部分を中心とした資金調達に加えて、そういう共感をベースにした、共感を投資に変える直接金融みたいなのも世田谷区にとっては非常に重要なんじゃないかなと思ひ、3つ目のキーワードを書きました。以上です。

【長山会長】

ありがとうございます。どんどん挙手してもらえればと。じゃ、お願いします。

【大藤委員】

色々と勉強させていただいてありがとうございました。今日のお話で大きく分けると、「アントレプレナー」っていうような話と「持続可能な事業」っていうようなところがあったかなと思うんですけど、それぞれで考えたところっていうのをお話しさせていただければと思います。

まず、アントレプレナーっていうところで言うと、その基本的方針で言うと、1と3っていうところに寄与すると思うんですが、アントレプレナーが増えるっていうところで、多様な産業が起こっていくし、まさに地域社会の課題解決をできるような事業が増えていくっていう風になるのかなと思ってました。どういう状態になるのがいいのかっていうことなんですけども、想いがある人っていうのが、アントレプレナーになれる状態っていうことなのかなとも思ひまして、私とかもそうなんですけど、なんとなくこうやれたらいいなみたいな想いがあるっていう時にどういう風にしたらいいのかわからないみたいなことがあるので、そういうちゃんと想いがある人が、それをちゃんと事業にして形にできるような支援っていうのをやっているといいのか

なっている風に思いました。

そうする時に何が必要なのかなっている風に思って、今日、プレゼンテーションでご共有いただいたような大学の仕組みみたいなところは、すごくいいなと思ったんですけども、もっと一般の区民にとって身近になっていくといいのかなっている風に思って、私の地元が奈良なんですけど、奈良のシェアオフィスみたいなのところに行った時も、そこで起業ができる講座を受けられたりとか、起業までの伴走支援をその講座の中で行っていたりとか、起業アイデアのコンテストみたいなのをやっていて、私が、例えば奈良に住んでいたら受けたいなっている風に思ったりしたんですけど、そういうのを例えば、三茶ワークさんとかでやってもらったりしたら、自分だったら行きたいなっている風に思ったりとかアントレプレナーの方はしました。

持続可能な事業の創出の方なんですけども、これも、私は今日、すごくなるほどって思ったんですけども、先日まで、持続可能な事業をなぜするのかっていうので、やっぱり、事業者側があんまり自分にとって得がないから自治体がインセンティブとかを出さないと無理なんじゃないかって思っていたりしたんですけど、今日ご共有いただいて、すごく持続可能な事業をしていくっていうことが事業者にとっても売り上げが上がったりとかしますし、ウィンな状態なんだなっている風なことがすごく気づきだなと思いました。目指す状態としては、事業者もワーカーも顧客もそれぞれウィンな状態になるような持続可能な事業っていうのをみんなで作っていくっていうのが、やっぱり目指すところかなっている風に思いました。

そうした時に、そういうものをどうやって作るかで言うと、例えば、その事業者側とかワーカーとか、顧客側とか、それぞれの視点で、持続可能な事業ってなんなんだろうっていうのを考えるワークショップみたいなのをやると、それぞれの視点で、こういう風なものがあったらいいなっていうのが出てくるので、そこから実際に事業とかに繋がるんじゃないかなって思ったりしました。ありがとうございます。

【長山会長】

挙手と言って最初に勢いよく出していただいた上で、最終的には、全員に発言をいただきたいと思います。まだ発言されてない吉田委員の方からよろしくお願いします。

【吉田（凌）委員】

はい。ご説明ありがとうございました。僕からは4つです。「ワクワク」と「いいデザイン」と「宣言と応援」、「理念と実態」ってところで、個人的に感

じたことを書いてみました。

まずは先ほどおっしゃってた通り、「ワクワク」っていうところがすごい大事だなと思ってて、やっぱり何をやるにしても社会課題っていうのが先行して、長続きしないと持続的にならないと思ってて。その原点にあるのが、やっぱりワクワクだったりとか、大石さんがおっしゃったように面白さみたいなのかなのかなっていう風に思ったので、本当に課題解決の1歩前に遊びだったりとか、単純な話し合いみたいなのが必要なのかなっていう風には思いました。

ここで1つ提案ベースになっちゃうんですけど、やっぱり、直接的に働きかけるのって結構難しいと思っててナッジとか行動経済学の直接働きかけるわけじゃないけど、間接的に動かせるみたいな、そういう取り組みも入れていくのは面白いのかなっていう風に、大石さんの話を聞いて思いました。

2つ目が「いいデザイン」っていうところで、田中さんがおっしゃったところがすごい自分が共感したところなんですけど、やっぱりデザインもいいデザインが必要だと思ってて、これも例えば、持続可能な社会を作っていくために、長期的なデザインも必要だと思うんですけど、短期的に繰り返していきける、実証できるみたいな環境ってすごい大事だと思ってて、それこそ、ものづくり学校みたいな感じで、3か月単位とか半年単位で実証できるみたいな環境があれば、より一層、長期的なところにも生かしていけるのかなという風には思いました。

3つ目の「宣言と応援」っていうところで、上勝町の例を挙げられてたと思うんですけど、僕の個人的な感想になっちゃうんですけど、ビジョンを見た時に、文字に感情が宿ってないなっていう風に思ってて、ただ文章が書かれていて、どこに思いが入ってるのかっていうのが正直わからなかったんです。だから、読む気にもあんまりならないというか。これが結構実態なのかなっていう風に思うんですけど、何をやりたいのかっていうところを優先化するっていうわけじゃないんですけど、どこまでに何をやりたいのかっていうところが、もっと人の顔が見えた状態で、見えるようになると、より一層共感しやすくなるというか、人間的な部分が出るのかなっていう風には思いました。

最後の「理念と実体」っていうところなんですけど、今回、SDGsとかアントレプレナーシップみたいなところが話題に上がったと思うんですけど、結局は、そういう言葉とかも便利ワードというか、結局、実態をどう捉えるかって、その人の声次第なのかなっていう風に思ったので、実態をもっと捉えた上でそういう人たちの声を、さっきおっしゃってたように、拾い上げるプラットフォームが必要なのかなっていう風には思いました。以上です。

【長山会長】

はい。では、宮井委員、お願いします。

【宮井委員】

私の方からは、先ほど長山会長の方からお話がありました世田谷区のアントレプレナー支援の仕組み、特に、世田谷信用金庫と昭和信用金庫ですけど、起業したいという方のお話を聞いております。その中で、やっぱりどうやったら利用できるかっていうことと、やっぱりお金の面ですね、皆さん自己資金がこれだけありますけど、あとはいくらお金を用意しなきゃいけないのか、本当にお金を借りるってということが初めての方が非常に多いので、どのようにしたらいいのかっていう負担が非常に多いと。せつかく創業機関ネットワークっていうのがありますので、そちらの方のPRっていうのが、いまひとつなかなっていうところですので、このPRをどんどんやって世田谷区の起業したいっていう増やしていきたいと思っています。また、起業したいっていう方がいる一方、廃業するっていう方が当然増えてますので、廃業する方以上に起業したい方を増やしていきたいという風に思っております。

【長山会長】

ありがとうございます。では、松原委員、お願いします。

【松原委員】

はい、ありがとうございます。私は、1番の「多様な地域産業の持続性確保に向けた基盤強化を図る」に注目をしてお話を聞かせていただいております。地域経済を発展させるためには、0を1にするところのサポートをするのか、1を100にするサポートをするか、その辺りを意識しながらお話を聞かせていただきました。お話をきく中、特に、大石さんのお話を聞いて良いと思ったのが、電気の地産地消、生産と消費の見える化を図る「地産地消」の考え方です。食の地産地消だけでなく、世の中の様々な事業の地産地消、地域が様々な事業を応援する形をとれるとすごくいいなと思います。「事業の地産地消」の取り組みを行うためには、じゃあどうすればいいかというところで、「事業者それぞれの顔の見える化」をしないといけないです。世田谷区で何か事業を起こしたり、世田谷区内ですでに事業を行っている方を応援する仕組みが欲しいなと思います。例えば、千葉銀行が行っている「ちばぎん商店」という地域限定のクラウドファンディングやECの仕組みがあったりします。このサービスは一例ですが、そういった仕組みを銀行や事業会社と連携して「世田谷区主導」で行って、0から1のスタートアップの応援と、1から100の事業発展の

応援を行って、様々な事業の地産地消が出来るの良いなと思いました。

【長山会長】

では、古谷委員お願いします。

【古谷委員】

4名の方のお話はなるほどと全部素晴らしいことをやられてるなと思います。が、どうやってまとめるのですか。というのは、個別の皆さんがやられていることは素晴らしいことですし、私もそういう意味では言いたいことがいっぱいある。俺がこうやってんだよってのはいっぱいあるんですけど、それをいくら言ったって形にはならないと思うんですね。今ここで会議をしているのは、地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方で、具体的な方法論を話してるんじゃないと僕は思っています。いくらでも出てくると思うんですよね。だから、それをどうまとめるつもりなのかわからなくて、実は何も書いてなくて。

端的に言いますと、目指す指針、政策と運動がキーワードです。この政策と運動の両輪をちゃんと回していくための、いわゆる指針、ビジョンこれをどうするのかっていうのをここで話さなきゃいけないと思うんです。で、皆さんがやられてることをどう具現化するかっていうのは、個人の意識改革と仕組みの改革、これは両面が揃わないと無理だと思うんです。車で言うならば、運転者と車がなければ運転はできないんですよ。でも、運転するためには知識がないといけません。ドアを開ける、ウィンカーを出す、一時停止で止まる。そういう、知識がないと運転できない。その両面の、いわゆるハードとソフトが揃って初めて何か動く。世の中を変えていく仕組みは、必ずこの両面が揃った時に世の中変わってるんです。片方だけやっても変わらない。ソフトが変わったって、ハードが追いつかなかったら全然変わんないじゃない。だから、そこを作るためのまず下準備が、具体的な皆さんの施策は僕は全く否定しないし、電気だってすごく興味があるんですよ。今度1回話を聞いてみたいなって思ったし、先生の言われたこともそう、SXの話も、アントレプレナーシップもだって大事だと思いますけども、どうやってそれを区の施策としてこれを落とし込んでいくのか。そこが見えないから、あんまり僕はこの話に乗れないんです。なので、申し訳ないけれども何も書いていないです。以上です。

【長山会長】

中山委員、お願いします、

【中山委員】

フリーランス協会から参りました、中山です。貴重なお話いただきました。ありがとうございます。

どの枠に入れるものというよりは、伺ったお話の中で、私の中で考えたキーワードというのが、「日常の中での遭遇を楽しむ」ということと、「スポットライト」、「寛容」という3つがあるかなと思いました。

1つ目、「日常の中での遭遇」というのは、日常生活の中で、非当事者である社会課題に遭遇できるとか、地産地消の喜びを知って語り合えるとか、他業種と出会って助け合うことを楽しめるとかですね。いかに日常生活の中で、その課題であったり、特性を知れるかっていうことにかかっているのかなと思いました。その上で、皆さんのお話にも共通していた、ワクワクとか、楽しいとか、面白いとか、やはり、ソーシャルビジネスに関わるっていうことが、かつこいい、面白いっていう風に、町中でスポットが当たっているような環境、それと、チャレンジしたい人と、応援したい人がそれぞれに、スポットライトが当たって、いいことをやってるっていうのが、町の中で周知されていくと。そういうものを見ることで、周辺の人に関わりたいたいとか、「あ、それいいな」とか、「わがまち最高じゃん」という風になってくるかなと思うんですけども、その時に、いかに環境が寛容であるかというところで、誰でも共感ベースに、協働の輪に入ることができるとか、小さくても、細くても、町の中で仕事を見つけられるとか、積極的にチャレンジして、仮に失敗したとしても、再起できるし、再起して、またチャレンジしてる人がいるみたいなことは、共有できるといいのかなと思ってます。それがどう具体的に、この項目に入ってくるか、考えきれてないですけども、そういうことを感じました。ありがとうございます。

【長山会長】

では、千葉委員をお願いします。

【千葉委員】

このように縦になっちゃったんですけど、まとめた感じです。ちょっとバラバラになっちゃうんですけども、基本方針の1番、2番の部分でのデザインという部分について僕は色々考えた。デザインの意味もものすごく幅広く、あくまでもデザインっていう言葉のイメージではなく、どちらかという、設計というか、構成というか、そういう部分をどのように伝えるのが、全部に広がってるのかっていうのは、ちょっと考えつつ、大石委員の押し付け合いという言葉、すごい言葉、まあよく出てきたなと思ったんですけど、3番、4番に

当たる部分で、どのように、人と押し付けないような状況を生み出すことができるか、考える議題としては、押し付けたいということなのか、押し付けないことの重要性なのか、それとも、押し付けたことによって得られるものもあるかもしれないので、考えることとしては、言葉としては、ここはいろいろと考えました。

ただ、今の現状で、何が正しいのではなく、そこは、結構重要なキーワードになっていると。見えることっていうのも、大石さんが言われてますけど、見えることによって、何が変わるかという、意識が変わる可能性がある。もちろん、意識が変わることによって、環境が変化してくるのではないかと思ったので、これもキーワードとしては、3番、4番に当たる。

そして、市川さんがおっしゃられたSXの話です。僕自身、考えてることとしては、個人の意識がそもそも変わらないと、全ての構造が変わらないと思っている。そういう部分をどのように、人から促されて変わるものではないと思っているので、これをどのように変えていくのがいいのか、考えなきゃいけない。

そして、最後に、長山会長から言われている、人の繋がり部分。とても重要だと思ったんですけど、繋がりを作るには、じゃあどうすればいいのかっていうのは、我々が考えるべきなのか、それとも、そういう場を作るのか。先ほどのものづくり学校の話も出ましたが、ものづくり学校があるからそこに来ればいいのかって、そこに来なかったら、じゃあどうなるんだろうとか、そういう部分がものすごく難しいところ。

それを、ただ黙ってるわけではなく、どのように周知して、人を呼ぶのか、もしくは、呼ばなくてもどういうふうに繋がりを作ることができるのかを考える。そのためには、まちづくりで交流を深める。ただ、そのために必要なのは、マンパワー。ものすごく人の力が必要になってくるし、その人の力をどのように、ボランティアをどのように、集めていくのが重要なのかっていうのは、ちょっと考えなきゃいけないと思いました。

最後に、デザインにまた戻って、それを作るための流れですかね、それをちょっと作んなきゃいけないんじゃないかなという風に僕は思いました。

【長山会長】

では、竹内委員お願いいたします。

【竹内委員】

はい。私の方で2件、今日皆さんのお話を伺っていて、ふと思った言葉がちょっとシンプルかもしれないですけど、安全・安心ということでした。

大石さんの話を伺ってそういう言葉が浮かんでくると、ちょっと自分でも意外だったんですけれども、今の世の中のいろんな事件で、ちょっと自分の心の影響を受けているのかな、なんて思いながら、伺っていた。

やっぱり、いろんな新しい取り組みだとか、持続可能と、続けていくっていうことを考えた時に、人々に安心感を与えられるような、そういう取り組みというのは、支持されるんじゃないかっていうのを、長山先生のお話なんかも伺いながら、そういうところって、大事なのかなという風に感じました。

もう1点は、これからの多様な働き方ということは、前回と同じ話になってしまうんですが、目指していて、そうなった時に、いろんな今の労働法制だとか健康保険の仕組みだとか、そういったものがどうしても私の頭の中では、どうやってリンクさせるんだろうなっていうのは、なんかこう引っかかってきてしまいます。やっぱり今、多様な働き方と健康保険制度がかなりぶつかりますので、そういったことについて、区レベルで何かができるということではないんですけども、どういう提言ができるのかなっていうことについては考えていきたいなという風に思っております。以上です。

【長山会長】

では、児玉委員お願いいたします。

【児玉委員】

はい。今日、皆さんに刺激を受けながら、ただ、自分の言葉で目指す姿っていうのが、表現ができないのであれなんですけど、普段、僕なんかは仕事柄、実際に事業をやられてる方、そして廃業する方、で、また独立して起業する方は多くいらっしゃるんで、そういう中で見ていると、目的がしっかり見える方は事業継続もできていくんですが、目の前だけを一生懸命やろうとしてるとなかなかうまくいかない時代で、それはお客様というか対相手、消費者もそれを見ていて、この会社だったり、この事業主は何を考えてやろうかななど、なかなかそこに行かない、行きつかない、その個々の事業者が、今はやってるんですけど、そういうことが情報だったり共有できるような世田谷区であるといいなっていう風に思うのと、一方で、こう廃業していく方を見ていると、本当に需要がなくなって、なくなっていくものと、本当は需要があるんですけど、その個々の自社の中で、事情で辞めてしまっていて、でも、それを誰かが拾ってあげないと、その先にある消費者が困るケースもあったりして、そういうものも共有できるようにしていくとその消費者と事業者の関係をもっと近くなるような、そういう関係性を作れていったらいいのかなという風に思いました。以上です。

【長山会長】

では、見城委員、お願いします。

【見城委員】

はい。4名の方、お話ありがとうございました。とても勉強になりました。

私は、いくつかキーワードあげさせてもらったんですけど、すごく単純に一言だと、顔が見える、顔が見えるっていうところって、すごい改めて大事なことじゃないかなっていう風に思っています。普段からそういったところの取り組みを、推奨してはいますけども、改めて、そこから繋がってくる関係性だったりとか、顔が見えるっていうところをポイントとして考えた時に、それは対消費者だったりもそうですけど、その事業者同士の関係だったりとか、そこから社会問題も見えてくるだろうしっていう、なんかすごく単純なところだけど、この顔が見えるってところをポイントにしていったことによって、共感とかが生まれてくるかなっていう風に考えました。

なので、すごく単純なベーシックなところだけど、そういったところをポイントにしていくと、ちょっとずつ広がっていくのかなっていうようなことを考えました。

皆さん、結構皆さん仰っていましたけど、やっぱり、「ワクワクする」とか、そういった心躍るっていうのがものすごい大事なことだなっていう風に、最近、割とこう、近しい人たちの間で、その働くことについてのワクワク度がなくなっていくがために、持続できないってところが結構よく聞く話になってきているので、持続可能っていうところをポイントにした時に、そのワクワクと、自分がこう心を踊る状態でいられる、どれだけいられるかっていうところは、それが、事業側もそうだし、それが対消費者になっても、そういうところって伝わっていくと思うので、そういった意味では、なんかすごい大事なことだなって、改めて、すごい基本的なところを考えました。はい、以上になります。

【長山会長】

では、栗山委員、お願いします。

【栗山委員】

はい、栗山です。正直、お話がちょっと難しくて、頭の中がまとまらなくて、色々ご意見や発表も聞いていて、こういう方たちが、世田谷区内で、区も連携して活躍されているんだなという印象が先にあったんですけども、内容

についても、カタカナの言葉が多くて、携帯を調べながらわからないのは見ていたんですけれども、僕としては、やっぱり「人との繋がり」、地域でどうやって人と繋がっていくのかっていうのが、他の全てのことに関わってくるのかなっていう風に思っていて、コミュニティ、地域コミュニティなんて言葉もあると思うんですけれども、ここにヒントがたくさんあるんだろうなっていう風に思います。そこで、だんだん見えてくることがあるのかなということを感じました。

先ほど古谷さんからもお話がありましたけれども、地域経済の持続可能な発展を推進していくための考え方については、この場で色々それぞれのところで活躍されているメンバーの皆様ももちろんそうだと思うんですけれども、これは政治家もやっぱり考えていく話なんじゃないかなという風に思っていて、両面というか、両方でこういったことを進めていけばいいんじゃないかな。以上です。

【長山会長】

ありがとうございました。だいたい一巡しましたので、まだ少し時間がありますから、発表された方から、他の委員からの意見を受けて、何かコメントがあればお願いします。

【市川委員】

そうですね、確かに、この繋がりが生まれる、さっき大石さんがおっしゃった、私たちの消費やパワーを持ってるって言葉はなんかすごく印象に残っていて、そういう認識を、多分消費が、いろんな言葉が置き換えられる企画、私たちのまるまるがパワーを持っているっていうのがあると思うんですけど、実際それをパワーとするためには何が必要なんだろうかって思った時に、それが顔の見える化だったり、なんか自分の中で、ちょっと、解決じゃないですけど、ちょっと納得ができました。働き手もその1つの産地かもしれないですね。そのサービスの提供者っていうのも1つの産地かもしれないし、やっぱり世田谷の中で繋がることのできる、いろんな繋がり方ができる、その先が見えるから行動が変わるみたいなことが、仕掛けられていくと良いのではという風に思いました。

あと、先ほど、例えば、毎回古谷さんがおっしゃっているように、方法論とかいろんなものがありますし、事例もたくさんあるんですけど、基本的な考え方をどうやってみんなでブラッシュアップしてるかっていうのは、非常に確かに難しいなと思ったりもしていますが、そういうことを考える場そのものが、こうやって、そういう話し合いに、区民、事業者が参加できるってことこそ

が、持続可能なものにしていく上で重要なんじゃないかなと思っていますので、方法論の手法は、考えていたり、事例もヒントになるので、そういう示唆をみんなで得ることも大事だと思いますけど、やっぱり、対話だったり、そこに参加できる方法っていうのがあるといいのかなと思って、ちょっと今日は、考えをそうだよなって思いました。以上です。

【大石委員】

私たち発表する側の立場の人からは、発表するのが割と簡単というかですね、むしろ発表する方が楽というか、聞いてらっしゃる方は、消化するの大変だろうなっていうか、どういう風にこれを割り振っていくっていうのって、ものすごく難易度の高い話なんで、聞いてらっしゃる方は大変だなと思いつつながら、僕も実際に話していた側面もあります。もうちょっとわかりやすく話せばよかったかなとか。色々話せばあるんですけども、私から1つだけ、割と起業については、起業しよう、起業しようっていうことに関しては結構書かれてて、アントレプレナーシップについても書かれてるんですけども、例えば私たちの会社、まだ、全然そんなうまくいってないですけど、うまくいった時に世田谷区に残るかどうか、定着するかどうかっていうことに関して言うと、現実問題として、どこのビル入ったらいいかっていうと、このビルもないし、実際に僕たちが例えばその資金を得た時、世田谷区のところ、UPDATERのベンチャーキャピタルを作りますよって言った時に、なんか区と連携するところとか実際あるのかなと、そもそもそこに受け皿を検討してる、そもそもそういう素養ってあるのかなみたいなのところに関しては思ったところで、これで言うと、4番に当たるんですかね、この持続性のある、ある意味、経済というのいうと、実際に再度その企業がうまくいった時に還元する、ベンチャーが根付く街っていうところに関していうと、必要な要素なのかなってちょっと思ったのと、あと、ぜひ優しさも欲しいなと思ってて、起業って失敗もつきものなわけです。当然、ほとんどの会社は、うまくいかないわけですよ。日本の場合、それが、起業すると大体、もう1回失敗すると、自己破産してみたいなことになるケースになって、二度と復帰できないような、そんな感じになっちゃうんですけど、その受け皿が世田谷にあると、起業して失敗した人にも、ある意味、その受け皿があるっていうようなところの、その失敗した人への優しさみたいなのところも、この4番のところに入ると、ちょっと他の地域とは違ったものになるんじゃないかなという風に自分で話しながらそう思いました。

【田中委員】

ありがとうございます。私から1点、古谷さんがおっしゃっていた、どうや

ってまとめていくのか、どう結論に至るかというところは、私も実は前回の会議から非常に危惧しています。これだけ多様な人たちがどういう風に対話を重ねていくのかというのは、とても難しいですし、それこそ設計が入らないと、こういうことを私たちも実務でやっているものですから、世田谷区の皆さんがどういう風に議論をまとめていくのかなというのは若干心配をしていました。

今回は、直前で、40分で皆さんの意見を拾うのは効率悪いし、付箋があつてワークシートの中に意見を、最初のインプットトークを聞きながらインスピレーションを拾っていくやり方を言ったのは実は私なんですけど、また、グラレコを入れようということや、例えば、この口の字の席順も対話や思考を混ぜるというやり方だとするとあり得ないんですよ。そこで真ん中にホワイトボードを置いて、皆さんが同じところを見ながら意見を言う構図にしましょうということから、一旦はグラレコにしましょうっていう話になったりしました。

良い結論や結果に至るには、良い原因が絶対にあるんです。その原因をプロセスとしてデザインするということができるんです。この対話の中で、せっかくこんなに多様な人たちが集まって、皆さん色々な意見をお持ちの方が限られた時間の中で、如何に良いプロセスを踏みながら、結論に向けていくのかというのは、それも合わせて議論しながら進めるのが重要かと思います。横から私も対話の進め方を入れ知恵させてもらいながら、ここに参加させていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

【長山会長】

後藤部長が一生懸命書かれているので、せっかくなのでお願いします。

【後藤部長】

今日は発言をしてはいけないと思ったんですけど、どうするんだろうなというのは本当におっしゃっている通りだと思っています。個々の事例というのは、やっている方はすごくやっていて、その周りの方はすごく一生懸命やっているというところがありますが、それを行政に置き換えた時に、どう政策として展開していくかというところの転換が行政はすごく苦手なところなんです。見える化とか、やっていること、考えてることを区民の方々に伝えるというのがすごく下手な部分があつて、テーマはこういうことなんですけど、それをどういう風にうまくやっていけるのかというのは、すごく大きい話だと思います。また、今、無関心な方々を、これは経済の話だけではなくて、まちづくり全体として、今まで予定調和で来ていた部分が、世界の端で起きてることが自分の生活に直結する状況が増えてるような気がして、そこを一体感を醸成して、みんなで、かつ、大変なことなんだけど楽しく解決していくところ

が、横串にして考えて出していかなければならないというのは感じたところです。

こういう話すると、無理はしないでいいから、楽しくみんなで、気楽にやろうというのはすごく大きい話ですが、ただ、それだけでは立ち行かなくて、目の前の生活されている区民の方も明日生きるのも大変、事業を展開していくのも大変というところの二面性もしっかり踏まえた上で、世田谷ならではの解決策というのはなんなんだろうなというのを、皆さんと一緒に議論していきたいと思いました。こういうことを皆様の意見も拝見させていただきながら、次回に生かしていきたいなと思います。

【長山会長】

ありがとうございました。この後、事務局で付箋を回収して、書いていただいたので、カテゴリー別に分けたり、また、ストーリー化したりとか、何よりも今回は、産業ビジョンの見直しというのがあるので、まずは産業ビジョンについての勉強をしていただいた上で、改善のポイントについてご発言をしていくことが、よろしいのかなと思います。

それでは、活発なご意見やご指摘をいただきまして、ありがとうございました。終了のお時間が参りましたので、本日はいただきました様々なご意見、ご指摘などを踏まえて、次回、事務局の方で整理をしてもらいます。また、本日のグランフィックレコーディングについて、本日時点のものということで、渡辺様から簡単に説明をお願いいたします、

【渡辺氏】

今日は皆さんありがとうございました。本当にたくさんの事例が紹介されていて、今日は皆さんのトークの順番に書かせていただきましたけど、これからはこの分断してる線などもなくして、いろんなアイデアを交えながら、世田谷でしか実現できないことを実現できればいいんじゃないかなと思って、ワクワクしながら聞いておりました。後半もまだ全然ペンが追いつかず、途中段階なんですけれども、皆さんのアイデアを混ぜながら少しでも見える化できるようにというところをやっていきましましたので、今日のもはまだ完成ではなくて、これから 伴走しながら、徐々に大きい1つのビジョンの絵に入っていければいいのかなと考えていますので、今後とも、よろしく願いいたします。

【長山会長】

ありがとうございました。本日いただいた皆様からの多くの意見を個別に深掘りするために、会長勉強会ということを開催できればという風に考えており

ます。

どうしてもこの人数での議論っていうのは、そもそも対話なり、ご自身の様々な意見を お互いに、理解し合って創発というところは難しいところもありますので、もう少しテーマを分けて少人数で勉強会ということは何回かやったらどうかと考えています。日程等に関しましては、事務局と調整の上ご案内させていただきます。最後に、事務局より連絡事項をお願いいたします。

3. 閉会

【納屋産業連携交流推進課長】

本日は長時間にわたりまして活発なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。事務局から事務連絡でございますが、本日の会議録につきましては、事務局にて作成の上、後日、皆様に確認をお願いしたいと思います。その上で、ホームページへの掲載もさせていただきたいと思っておりますので、ご了承をお願いできればと思います。

次に、次回の開催予定ですが、資料6に簡単なスケジュールを添付させていただいております。次回第3回は、事前に日程調整させていただいておりますが、7月13日木曜日、18時から20時を予定しておりますので、ご都合のほどをよろしくをお願いいたします。第4回以降につきましては、明日以降できるだけ早めに日程調整のお願いをさせていただきたいと思っておりますので、ご協力のほどをお願いいたします。また、第3回会議でも、プレゼンテーションをさせていただく方向で検討していきたいと思っておりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

最後に、長山会長からございました勉強会につきましては、調整の上、皆様にご案内をしたいと思いますので、可能な範囲で積極的なご参加をお願いできればと思ってございます。以上です。

【長山会長】

それでは、第2回地域経済の持続可能な発展を目指す会議はこれにて終了いたします。本日は長時間ありがとうございました。